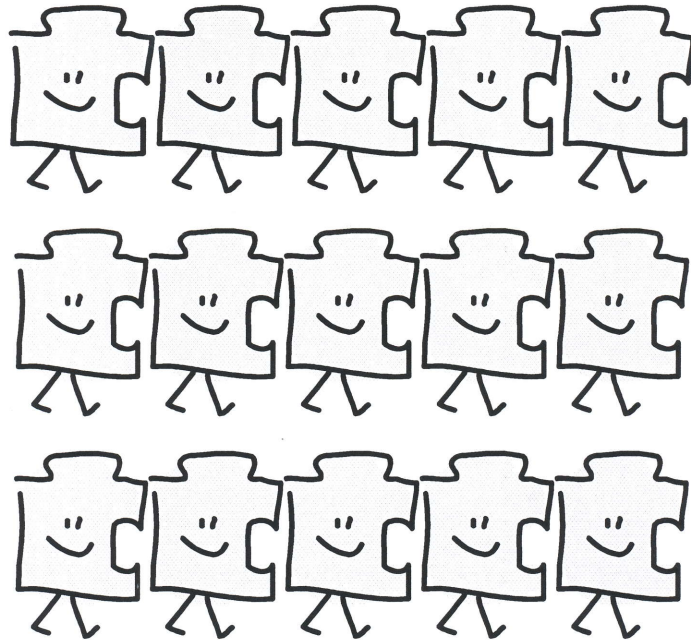


～小さなひとりのつぶやきに耳を傾ける～

住民懇談会の開き方



はじめに

校区福祉委員会は『誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり』を目指し、これまでにさまざまな形で地域福祉活動を立ち上げ、運営してきました。ここで活躍する福祉委員のみなさんは地域住民の抱える福祉問題を発掘するプロフェッショナルです。その力は、丁寧に『住民の声を聴く機会、問題を把握する機会を持つ』ことで飛躍的に高まると言われています。

しかし残念ながら、ここ数年はそのような機会を持つことができずにきてしまいました。そこでみなさんに『福祉委員会で住民懇談会を開く重要性と、実際に開く際に大切にしたい考え方、具体的方法などをまとめた一目瞭然のハウツー冊子』を作りました。改めて住民懇談会のあり方をおさらいし、これからの活動への『やる気アップ！パワーアップ！』を目指して、新たな視点をみんなで共有したいと思います。

住民の声や意識を把握する機会を増やし、たくさんの「地域や暮らしのなかのスマイル」を産み出すために、パワーアップしませんか？

さあ、その扉を一緒に開きましょう！

もくじ

第1章 福祉委員会が住民懇談会を行う意味と価値を確認しよう	1
□地域福祉活動が元気になる魔法の足し算～小さなつぶやき～	2
□福祉委員会が大切にしたいこと（役割・機能）	3
□福祉委員会の“これまで”“これから”	5
□住民懇談会で地域が元気になった“あんな事例”“こんな事例”	6
第2章 住民懇談会ってなんだろう？！	8
□地域福祉活動の流れ	9
□開催する場面別の住民懇談会の型と特徴	10
第3章 住民懇談会を開く準備をはじめよう	11
□住民懇談会開催準備のポイント	12
□住民懇談会準備シート	17
□住民懇談会ふりかえりシート	21

第1章

福祉委員会が住民懇談会を行う意味と価値を確認しよう

- 地域福祉活動が元気になる魔法の足し算～小さなつづやき～
- 福祉委員会が大切にしたいこと（役割・機能）
- 福祉委員会の“これまで”“これから”
- 住民懇談会で地域が元気になった“あんな事例”“こんな事例”

□地域福祉活動が元気になる魔法の足し算～“小さなつばやき”～

そもそも地域福祉活動って何でしょう。ちょっと原点に戻ってみましょう。

HOP!



小さなひとり
のつばやき

+



おおきな耳
たくさんの耳

=



地域の夢

(ひとりひとりの想いや意見にみんなが耳を傾け、話し合うことで地域の理想を描きます)



地域の夢

+



支え合う手
やさしい手

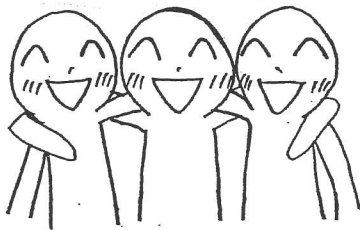
=



みんなの
笑顔

(地域の理想に向かって、みんなが知恵を出し合い、役割分担し合えば、みんなが幸せになります)

Jump!



みんなの
笑顔

+



みんなの
笑顔

=

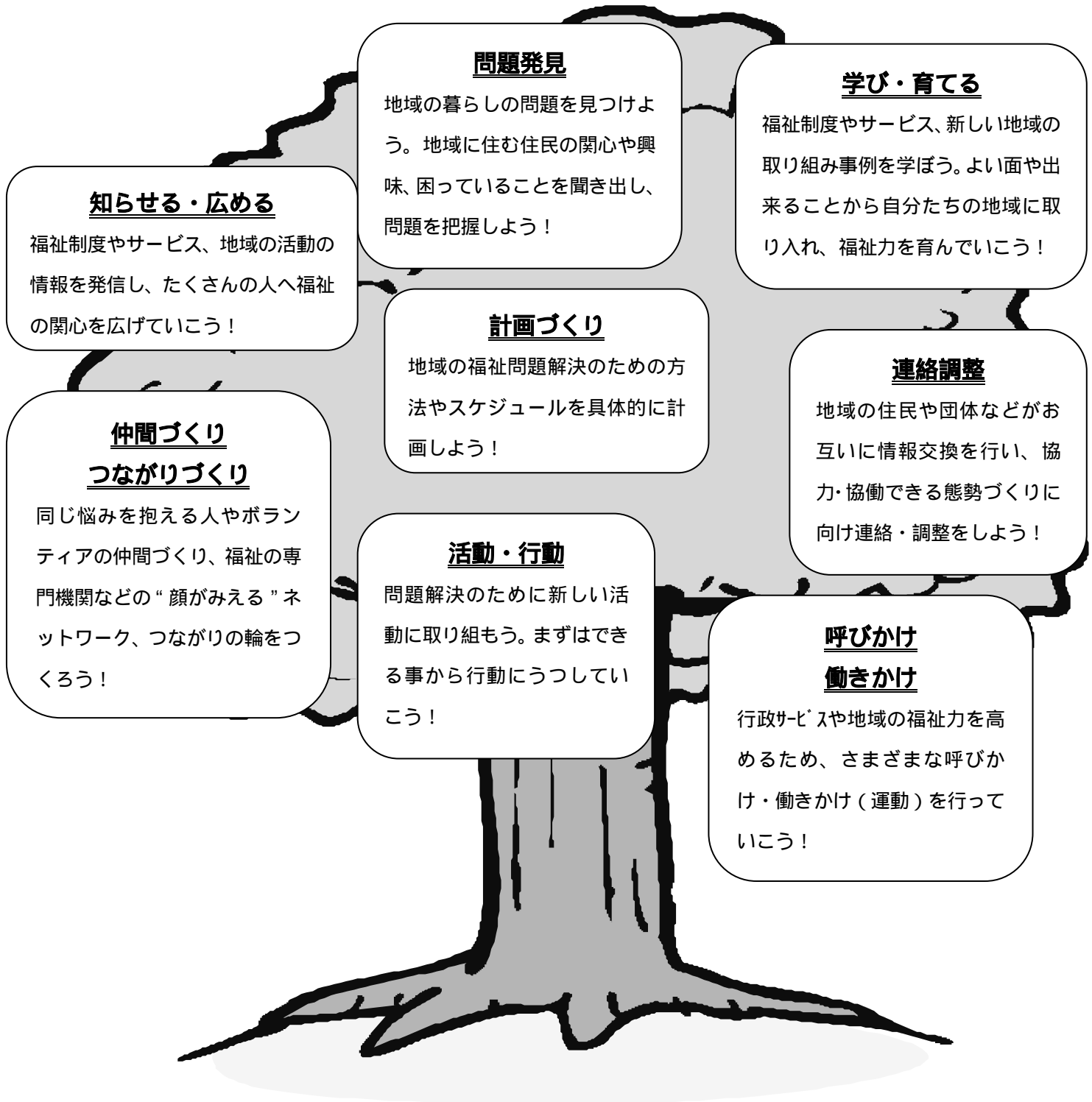


しあわせの
街

(しあわせの街、みんなの笑顔は、ひとりひとりの普通の暮らしのしあわせから生まれます)

福祉委員会が大切にしたいこと（役割・機能）

地域福祉活動を進める上で福祉委員会は下の図のようにさまざまな役割・機能を担っています。あらためて確認してみましょう。



そもそも福祉委員会とはなんなのでしょう。

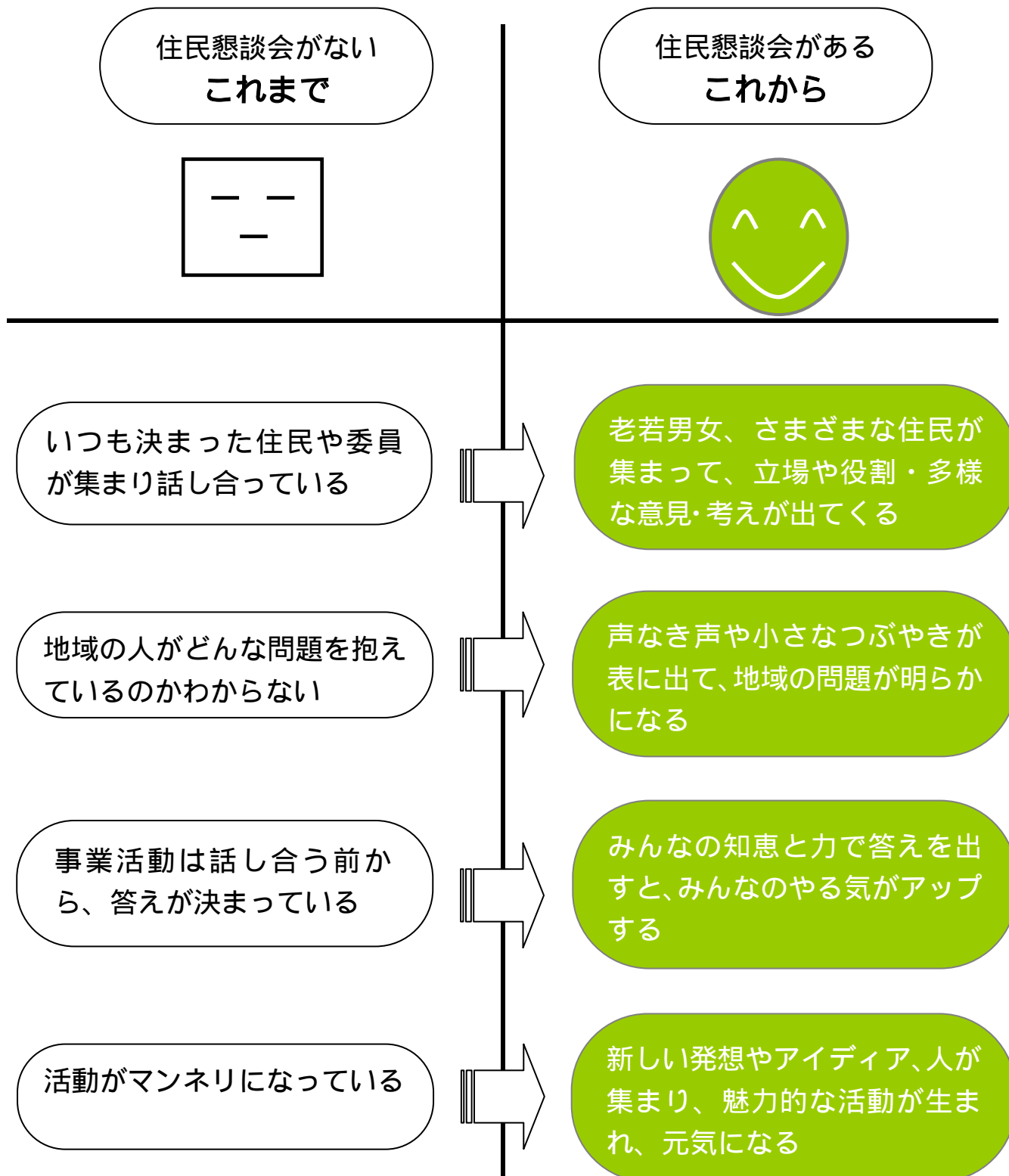
「サロン活動が忙しい」「学校の登下校の見守り、自主防災活動・・・なんだか地域活動が以前より増えている」「行事に追われている」など、さまざまな理由で“機能低下”または“機能不全”に陥っているケースも見受けられます。

福祉委員会が地域福祉活動の大切にしたいことを、“ちゃんと大切に”するために、より効果的な福祉委員会活動にしていくために、いま一度福祉委員会活動の原点にもどることが必要です。

それは、地域住民の“声なき声”や“小さなつぶやき”に耳を傾けることです。地域に住むさまざまな年齢、立場の人に集ってもらい、ひとりひとりの声なき声や小さなつぶやきを話せる場「住民懇談会」を開くことが福祉委員会の原点であり、もっとも大切な活動です。

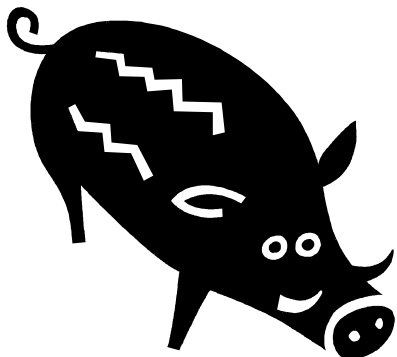
福祉委員会の “これまで” “これから”

福祉委員会の考え方や活動が、いつのまにか四角く “カタク” なっていませんか。住民懇談会を開いてさまざまな年齢や立場、役割の人の声、協力が得られると、福祉委員会活動も丸く “やわらかく” なり、いきいきした活動へ変わります



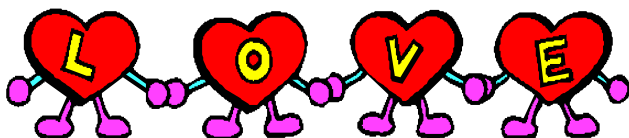
□住民懇談会で地域が元気になった

“あんな事例” “こんな事例”



神戸市では野生のイノシシが頻繁に住宅街に現れ、ゴミや庭が荒らされるといった生活環境への被害や人が噛みつかれたり、イノシシが原因で交通事故がおきたりするなど、地域住民の大きな問題になっています。

この問題に対し神戸市では住民や学識経験者が集まり「神戸市イノシシ問題検討会」(いわゆる住民懇談会)を開き、行政と住民と一緒に話し合いを重ね「イノシシ条例」を策定しました。その方法は、イノシシの生態の学習や理解を深め、住民の声をもとにして問題解決のアイデアを出し合い整理をしていきました。そして地域住民が取り組むイノシシとの付き合い方といったルールづくりにつながりました。



安全マップづくり！（寝屋川市和光校区福祉委員会）

和光校区福祉委員会では地域に潜む、高齢者や障害者、子どもにとって危険な場所と安全・安心の場所を明らかにし、災害や防犯などで使用できるマップづくりを行いました。取り組みは、地域全体の住民懇談会と地区別の住民懇談会でそれぞれ参加者の持つ問題を共通認識にし、どのようなマップを作成するのか話し合い、その内容を具体的にマップに落とし込みました。また、実際に高齢者を対象にした災害時の避難ルートの確認・検証をするなど、実際に役立つマップに仕上げられました。

子どもから大人まで312人もの人たちが、複数回の懇談会（安全マップづくり）を通じて、暮らしやすいまちの共通の認識や組織・団体がともに協力しあえるネットワークが生まれました。

「テーマを設定せず、これから取り組むべきテーマ自体を探る」

住民懇談会を開催！

(寝屋川市社会福祉協議会)

寝屋川市地域福祉活動計画を作成するために、5つの校区福祉委員会（池田第二、池の里、北、堀溝、和光）で各2回ずつ、住民懇談会を開きました。

1回目の住民懇談会の目標は「住民が地域で何を大切に思っているのか」「住民が暮らしの中でどんな問題を抱えているのか」を把握すること。2回目は、1回目に出された問題の解決策（アイデアや役割分担など）を出し合うことでした。

懇談会で集約された地域課題は、「犬のフン害対策」と「地域の子育支援策」、「ご近所同士が仲良くなる活動づくり」でした。

従来の住民懇談会との違いは、関係者がさまざまな人に声をかけ、参加者の輪を広げ多様な立場や年齢、役割の人が集まりました。それによって、“暮らし”の問題、“福祉”の問題とあまり意識をしていなかった、ペット問題やご近所付き合いについて意外に多くの方が悩んでいることが明らかになりました。

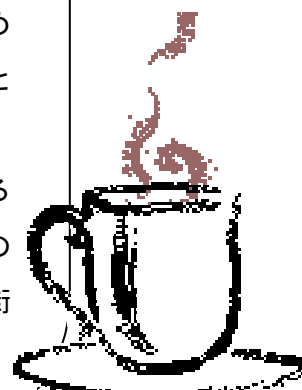
地区福祉委員会がNPO法人を設立しデイサービス事業を始める！

(大阪府池田市伏尾台地区福祉委員会)

池田市伏尾台地域では「呼び寄せられ高齢者」が増加、若い層の福祉委員会活動の少なさ、現メンバーで行う「ふれあいサロン」は週1回が限度といった課題を抱えていました。

「自分たちの望む伏尾台の町の姿について語り合おう」と住民座談会(住民懇談会)を実施したところ、「伏尾台の中に毎日デイサービスやグループホームがほしい」、「ふれあいサロンの回数を増やしてほしい」、「気軽に頼める家事援助・移送サービスがあったらいい」など、住民が求めていることが明らかになりました。

地域住民の切実な声に対して福祉委員会としてどうすれば応えていけるのか、何度も話し合いを重ねる中で、地域福祉活動の拠点となる空き家の提供があり、これをきっかけにNPO法人を設立しデイサービス事業、街角デイハウス事業を実施することになりました。



第2章

住民懇談会ってなんだろう？！

□ 地域福祉活動の流れ

□ 開催する場面別の住民懇談会の型と特徴

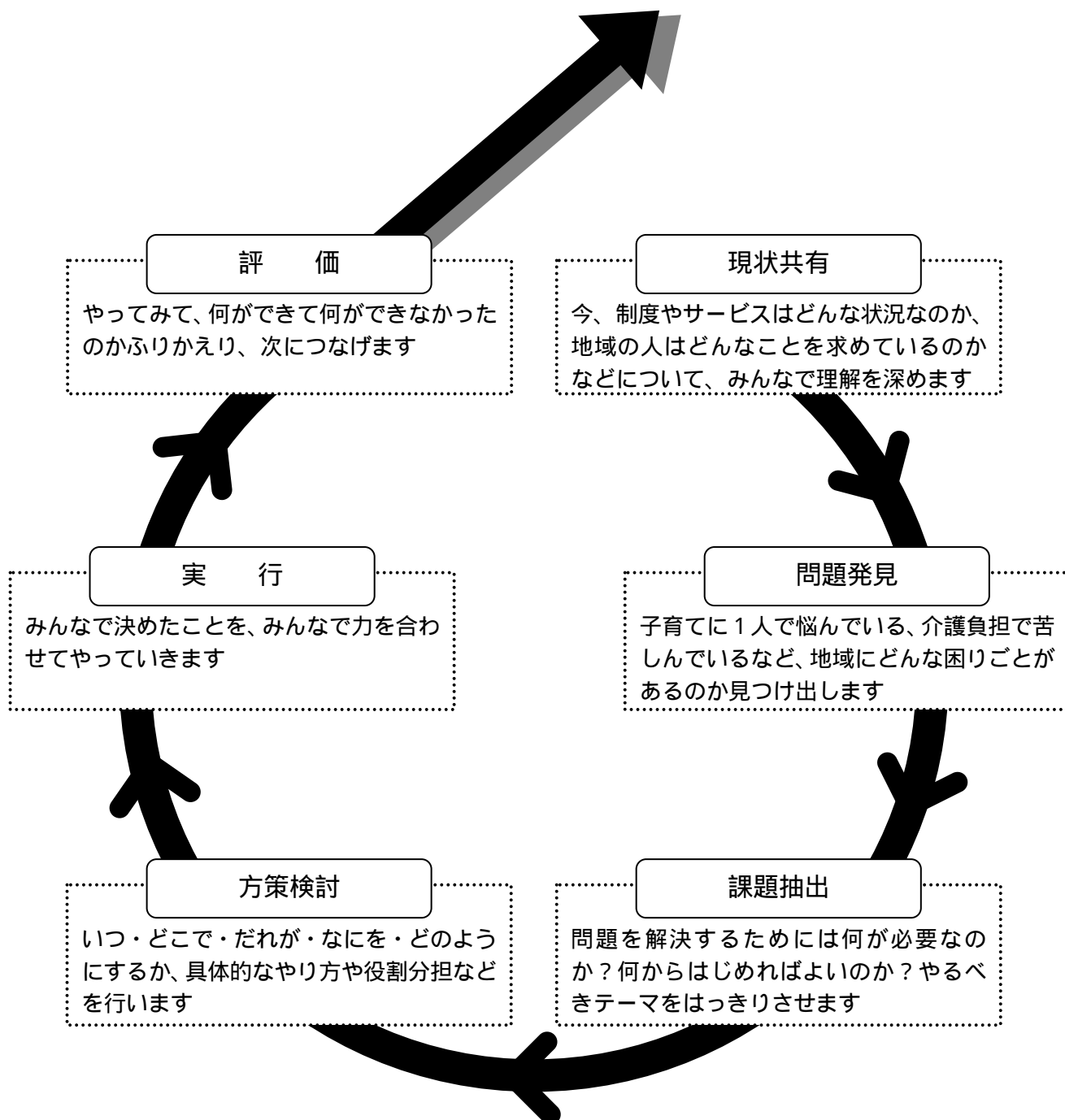
住民懇談会を開くことの意味や価値については、第1章で十分にわかったと思います。

では、住民懇談会を地域福祉活動のどのような場面で、どんな方法で開けばよいのでしょうか。雰囲気は想像できないと悩みを抱えている福祉委員会もあるようです。

ここでは、地域福祉活動の流れを再確認しながら、効果的な住民懇談会の開き方について見ていきましょう。


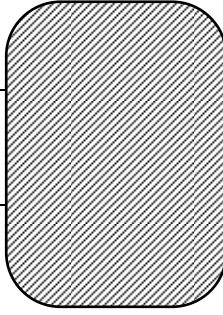
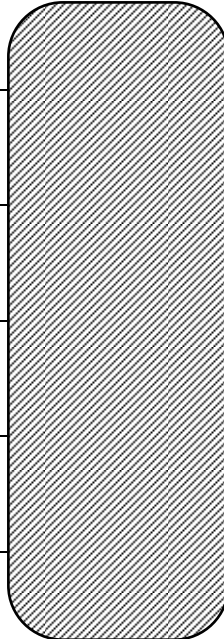

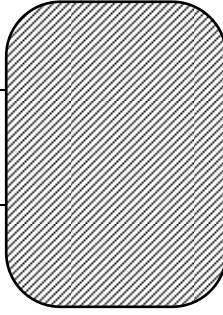
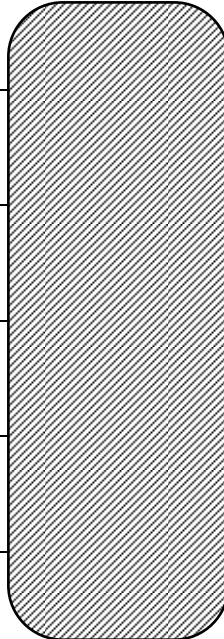

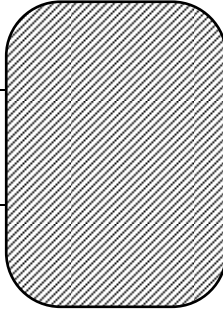
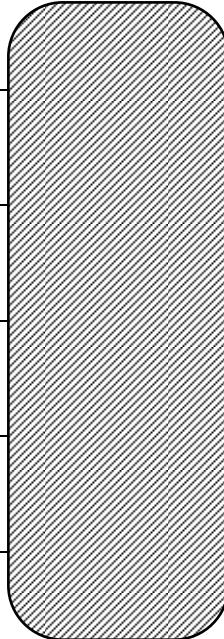

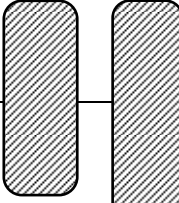
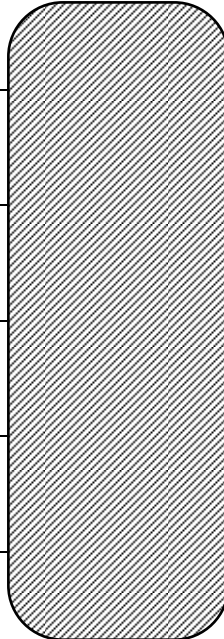

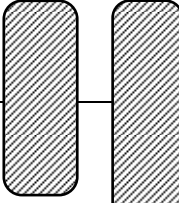
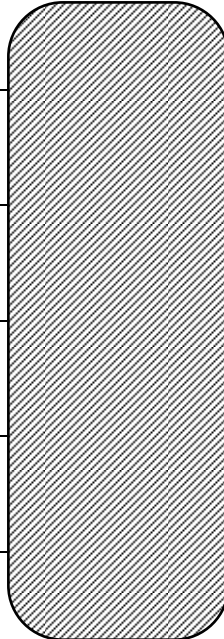

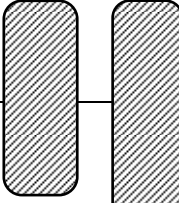
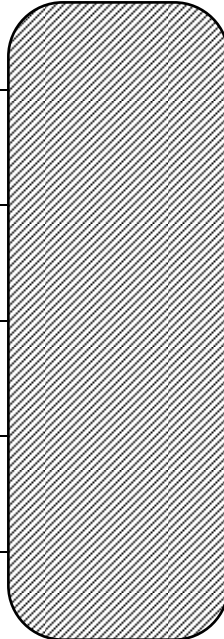
□地域福祉活動の流れ

地域福祉活動はさまざまありますが、どんな活動も基本的には下の図のような流れで進められています。



□開催する場面別の住民懇談会の型と特徴

住民懇談会は、地域福祉活動の流れ（左ページの図）の中のいろいろな場面で開くことができます。それぞれの型と特徴をまとめました。

住民懇談会の型 流れ	とりあえず やってみる型	方策検討型	テーマ探し型	徹底的に やってみる型
現状共有				
問題発見				
課題抽出				
方策検討				
実行				
評価				
特徴	『地域福祉活動の流れ』のそれぞれの段階で取り組みます。単発でやってみることができます。	あらかじめ決めたテーマに関心のある人を集め、活動をつくりあげます。	参加者が意見交換をしながら、地域で取り組むべきテーマを見つけます。	地域の現状を見て、問題発見から実行・評価まで、地域の人が、すべての段階に関わります。
メリット	気軽に開催できる 住民懇談会の感触がつかめる これまでに地域に関わっていない人が、地域に関わるきっかけになる	テーマに関心の高い人が集まるので、深い議論や取り組みができる いろいろなアイデアが出し合える 参加によって、やる気が高まる	さまざまな人の関心や問題意識が引き出せ、これまで問題として意識されていなかった多様な問題が見えてくる さまざまな人の気持ちがいかに理解しあえ、相互理解が深まる	地域活動のプロセス全体に関わり、とても充実感がある 参加によって、やる気が高まる 左記全てのメリットがある

第3章

住民懇談会を開く準備をはじめよう

- 住民懇談会開催準備のポイント
- 住民懇談会準備シート
- 住民懇談会ふりかえりシート

では、いよいよ住民懇談会を開いてみましょう。・・・とはいうものの、どこから手をつけてよいのか雲をつかむような話だと思います。

この章では『住民懇談会準備シート』を使って、住民懇談会の開く準備をします。

ポイントを押さえながら計画すれば、さまざまな地域の人が膝を突き合せ、本音で語り合うことができます。

きっとその先には、活気あふれる元気なまち（地域）とたくさんの人の笑顔がまっいているでしょう。

□住民懇談会開催準備のポイント

住民懇談会開催準備シート（17～18ページ参照）を使って計画をしましょう。方法は、準備シートの項目をみんなで考えながら記入していただくだけです。下記の各項目のポイントを押さえておきましょう。

テーマ

住民懇談会を開く場合、テーマを決めて開く場合とテーマを決めずに開く場合があります。

テーマを決めずに開く場合は、準備シートのテーマ欄は空白又は『テーマを探る』ということになります。その場合、6～7ページの事例紹介のように参加者のさまざまな関心やその高さ、問題意識など、幅広い意見の把握ができます。

テーマを決めて開く場合は、私たち地域住民にとって身近な話題や問題、関心事をテーマに取り上げます。ヒントは、子ども会や老人会、ご近所のクチコミの話題やウワサのネタなど身近な問題。また、新聞やマスコミで取り上げられている時事テーマなどにもあります。

ちょっと意識して見回して見ると、今みんなで話し合いたいことやアイデア、そんな住民懇談会のテーマが私たちの周りにはたくさんあるはずです。

テーマの設定理由

テーマを設定した場合はその理由を明確にしておきます。少し面倒かもしれませんが、テーマに関する問題や概要、その背景について資料などを調べ、関係者から話を聴いておきましょう。

そうすることでよりテーマの設定理由が明らかになり、誰に参加してもらわなくてはならないか、声をかけなければならないか、住民懇談会で話し合う前提条件や論点などが明確になります！

達成したい目標

開催する住民懇談会のかたちによって、目標が変わってきます。住民懇談会終了時に、どのようなモノ（成果）が出ていればよいのかイメージします。

例えば、『開催する場面別の住民懇談会の型と特徴』（10ページ参照）の“とりあえずやってみる型”で現状共有を行う場合、参加者が言いたいことを言え、正しい情報をみんなでちゃんと共有することです。“テーマ探し型”の場合なら、これから何をすればよいのか明らかになるでしょう。また、“方策検討型”の場合であれば、たくさんのアイデアが出され、実行が可能なものに絞り込むことが求められます。

特に住民懇談会の声を福祉委員会活動へ活かしていくために、どのような形の成果や結果を得たいのかしっかり考えておくことが重要なポイントです。

最初から大きな目標やたくさんの達成目標を設定するのではなく、継続した取り組みと考えると小さな目標をひとつひとつ積み重ねていきましょう。



対象（参加者）

地域に住む人や団体の“声なき声”、“小さなつぶやき”に耳を傾け、今まで地域と関わっていなかった人たちにも地域福祉活動の輪を広げていくことに、住民懇談会の大切な意味があります。ここで重要なのは、住民懇談会に呼ぶべき人は誰なのか、ほんとうに適正な対象なのかをよく吟味することです。

テーマ設定をして開く場合の対象者

テーマに直接関係のある人や間接的に関係のある人
専門家や関係者、これからつながりを持ちたい団体や個人

テーマ設定をせずに開く場合の対象者

地域に在住する全ての住民

対象とする人数も開催するタイプによって違います。たくさんの方の意見を集める時と少数で議論を深める時によって人数設定を考えます。また、呼びかけは直接の声かけや広報による公募など、上手く使い分けます。呼びかけやすい人や直接関係のある団体や個人だけにならないように、どうしたらこれまで関わりのなかったような住民を巻き込むことができるかが、住民懇談会の『真の成功』を左右する鍵になります。

日程

住民懇談会のタイプによって1回だけの単発開催から複数回の開催まであります。複数回行う場合は、懇談会で行う中身によって集中的に話し合うことが必要なのか、進み具合によって期間や日にち、また、曜日や時間を考えることが必要です。

例えば、子育て中の親の場合、夜は外出しにくいでしょう。仕事をしている人の場合、平日の昼間などは参加してもらえません。ついつい主催者の都合で日程を決めてしまいがちです。参加してほしい人が集まりやすい曜日や時間になっているかどうか気をつけましょう。

場 所

住民懇談会の目的にあった場所や雰囲気を考え、参加者にわかりやすく集まりやすい場所にします。

参加者が集まりやすいように駐車場や駐輪場の確保、子育て中の親に集まってもらう場合は、バキー置き場の確保など配慮をします。

また、住民懇談会のプログラムによって、必要なスペースや設備の確認をしましょう。

予 算

住民懇談会の内容によって、必要な備品や講師料など、いくらからい必要かメドをたてます。

準備・広報スケジュール

住民懇談会を開くまでの段取りを考えます。会場や備品の確保、講師との打ち合わせなど、いつ何をすればよいのか、スケジュールを立てましょう。

また、広報で住民懇談会を開くことをわかりやすく、興味を持ってもらえるように知らせしましょう。特に誰に呼びかけたいのか、どんな方法で呼びかければ効果的なのか考えましょう。例えば、社会福祉協議会や福祉委員会の機関紙、全戸配布のチラシや回覧、ポスターの掲示があります。また、一番の効果的なお知らせは『クチコミ』です。



内容(プログラム)

住民懇談会でさまざまな人が集まり、何らかの結論を出していくには、行き当たりばったりでなく、あらかじめどのようなプログラムを進めるのか考えておく必要があります。

せっかく懇談会を開いても、参加者が下を向いて黙ってしまえば懇談会の目的が達成できなくなります。主催者として懇談会の枠組み、内容を整理しておきましょう。話しやすい雰囲気にするために導入部分はどうするのか、本題部分やまとめ部分はどのように意見を引き出し進めていくのかなど、懇談会の流れを丁寧に準備します。話し合う内容や順番、時間枠、手法を考え、参加者が話しやすく、意見交換しやすい工夫をみんなで考えましょう。

(参照：寝屋川ふくし発見プラン冊子)



必要な準備物

準備で必要なもの、当日に必要なもの、後日必要なものを書き出しておきましょう。

会場設営

会場設営は住民懇談会の中身に応じて、机やイスの配置を工夫します。例えば、一方通行の説明会なら机やイスを劇場や教室のような形に並べるとよいでしょう。参加者同士が話し合うには、5～6人でテーブルを囲むように並べたり、机なしで車座に座ったりするなど、懇談会にあった会場づくりをします。その他、懇談会が始まるまで音楽を流すなど、参加者がリラックスしやすい会場の場づくりを工夫しましょう。

せっかく一生懸命取り組んだ住民懇談会。やりっぱなしにしてはもったいない。よい成果もよくなかった成果も次につなげていくことが大切です。そのためにも取り組んだ住民懇談会をいろいろな角度からふりかえることが必要です。

住民懇談会ふりかえりシート(21ページ参照)を使って、参加者の側や主催者の側から、住民懇談会そのものはどうだったか、その内容は企画した目的・目標を達成できたかどうか、やってみて見つかったこれからの課題は何かなど、みんなで住民懇談会をふりかえってみま

まとめと評価

まず、住民懇談会で参加者の意見や感想をまとめましょう。まとめと評価を行うために、主催者はしっかりと住民懇談会の記録をつけておきます。また、参加者から住民懇談会への意見や評価が得られるように、アンケートや聞き取りを実施するなど進行の工夫や準備をしておきます。

次に、主催者として住民懇談会をふりかえります。達成したい目標に対してできたことやできなかったこと、また、よかったことや気づいたことなど、実際にやってみてどうだったのか広い視点でふりかえりましょう。

住民懇談会の取り組みをふりかえり、これからの福祉委員会活動につなげていく課題を明確にしておきましょう。



開催日時： _____ 年 _____ 月 _____ 日 (_____)

_____ ~ _____

開催場所： _____

参加者数： _____ 人 (内訳： _____)

当日のテーマと内容：

Empty rounded rectangular box for recording the day's theme and content.

参加者の声

- 内容・結果 -

当日の参加者の声や様子、アンケートなど

Large rounded rectangular box for recording participants' voices and survey results.

主催者の声

達成したい目標に対して、主催者として評価します

楽しかったこと
よかったこと

気づいたこと
学んだこと

もっとこうすれば
よかったこと

Large rounded rectangular box containing the organizer's voice section and three sub-sections for evaluation.

これからの向けての課題

Large rounded rectangular box for recording future challenges.

住民懇談会に実際に取り組んだ成果や内容、ご意見やご感想をどしどしお待ちしております。

作成メンバー：寝屋川ふくし発見プラン推進委員（50音順）

推進委員氏名（所属）	
岩木 啓子	（ライフデザイン研究所 FLAP）
川口 秀夫	（民生委員児童委員協議会）
佐部田 貢一	（市政協力委員自治推進協議会）
白川 清曠	（社会福祉協議会理事）
新宅 智子	（堀溝校区福祉委員会委員長）
所 めぐみ	（仏教大学社会学部講師）
成松 恭子	（寝屋川市市民活動センター）
三原 和美	（障害児者を守る親の会）
オブザーバー委員氏名（所属）	
川原 祐	（市民活動振興室）
清水 誠	（保健福祉部高齢介護室）
藤 一男	（保健福祉部障害福祉課）
山田 忠	（保健福祉部福祉政策課）
吉村 淳子	（保健福祉部子ども室）

発行日：2008（H20）年3月

発行：寝屋川市社会福祉協議会

寝屋川池田西町28-22市立総合センター内

でんわ 072-838-0400